

や BA. 5 といった特定の系統が流行の主体になっていたが、最近では複数の系統が同時並行的に流行している。

東京都健康安全研究センターによると、5月22～28日に分析したウイルスのうちオミクロン株の亜系統、XBB. 1. 16 が 31. 3%（前週は 37. 0%）、XBB. 1. 9. 1 が 20. 8%（同 18. 5%）、XBB. 1. 5 が 15. 6%（同 21. 7%）、XBB. 1. 9. 2 が 9. 4%（同 3. 3%）、その他の XBB 系統が 14. 6%（同 9. 8%）だった。

日本に入国する人のうち発熱などの症状がある人で、同意を得られた人の病原体を調べる入国時感染症ゲノムサーベイランスでは、5月8～14日に26人が新型コロナウイルス陽性と判定された。欧州や中国、韓国から入国した人からは、国内で見ついている XBB 系統がさらに変異した亜系統の FU. 1 や FL. 4、EG. 1 といったウイルスが見つかった。これらの亜系統が今後、国内でも増えるかもしれない。

■ ワクチンの対応株は

いずれの亜系統もこれまでのところ、より重症化しやすいという傾向はみられていない。

そんな中、厚労省のワクチンに関する専門家分科会は6月16日、9月以降に始まる新型コロナウイルスのワクチン接種では、XBB. 1 系統のみに対応したワクチンを使う方針を決めた。接種対象は、当初、原則として5歳以上のすべての人とする予定だったが、さらに検討し、秋までに最終決定するとした。

XBB. 1 系統のみに対応したワクチンを使うのは、従来のウイルスに対するワクチンをすでに接種済みという前提に立ってのことだが、小児ではまだその接種が進んでいない。内閣府によると、6月20日現在、11歳以下で初回シリーズのワクチン接種を終えた子どもは2割に満たない。12～19歳では71%が初回シリーズを終えたが、3回目の追加接種は45. 4%にとどまる。

日本小児科学会は、生後6カ月～17歳のすべての小児に、初回シリーズと追加接種を含めたワクチン接種を推奨するとしている。

子どもの間では最近、ヘルパンギーナ（夏風邪）やRSウイルス感染症、感染性胃腸炎なども流行している。とくに目立つのが夏風邪だ。通常は6月下旬以降に流行するのが、定点把握では今年は5月中旬ごろから増え始め、第23週には定点当たりの報告数が3人と、同時期では過去11年間で最多だった。過去3年間は新型コロナウイルスの感染対策のために流行せず、免疫のある子どもが少ないところに、5類に移行して感染対策が緩和され、前倒しで流行が始まったとみられる。

新型コロナウイルスが定着しつつある現在、どんな点に注意して暮らせばいいのだろうか。

「重症化リスクが高い人は、ワクチン接種やマスク着用も含めて、感染対策をより慎重に行ってください。また、重症化リスクの高低に関係なく、手洗いや咳エチケットは重要な感染対策です。さらにこれからの季節は、熱中症にも注意してください。熱中症は、感染して重症化した際の症状と区別が付きにくいこともあります」（藤田医科大学感染症科・本田仁教授）

（科学ジャーナリスト・大岩ゆり）